

## 自由応募分科会2 「インドの産業発展と日系企業」

### 報告3 「模倣と革新のインド製薬産業史」

上池あつ子（神戸大学経済経営研究所）

本報告の主題は、独立以降のインドの製薬産業の長期的発展の要因を分析することである。インドの製薬産業は、製造業において、高い国際競争力を有し、世界市場において最も成功している。インドは、1947年の独立から1991年の経済自由化まで、輸入代替工業化政策を中心に置く経済開発戦略を推進してきた。高率関税と数量制限による輸入規制、外資規制によって自国産業を保護育成し、輸入を国内生産に代替する輸入代替工業化政策の推進は、一般的には非効率、技術移転の遅れ、そして国産技術の陳腐化をもたらし、結果的にインド経済を停滞させたと考えられている。しかしながら、インドは製薬産業の輸入代替に成功し、その後製薬産業は、比較劣位から比較優位へと移行し、国際競争力を有する輸出産業として世界市場で台頭した。インドの製薬産業が輸入代替に成功した要因として、(1)1970年特許によるリバースエンジニアリングの促進、(2)産業政策と医薬品政策の存在、そして(3)医薬品価格規制の3点を指摘できる。

1990年代の政策転換は製薬産業にとって大きな挑戦となった。輸入代替工業化戦略の枠組みを大きく転換させ、インド経済のグローバル化を推進した1991年以降の経済自由化と1995年に発効したWTOのTRIPS協定は、製薬産業の成長を支えた制度的要因を喪失させた。しかしながら、1990年代以降も、インドは高成長を維持している。インド企業の中には、ジェネリック医薬品メーカーでありながら、創薬研究に挑戦する企業も出てくるなど、ジェネリックメーカーであることに満足せず、新しい技術の獲得と開発に努力し、高付加価値製品の開発に注力してきたからである。インドは、1970年代以降、リバースエンジニアリングで獲得した模倣技術と、1990年代以降に獲得した革新技術を融合させて、その競争優位を維持している。インドのイノベーションとは、模倣技術と革新技術を組み合わせることである。インド企業は、模倣と革新を融合したイノヴェーティブな製品やサービスを提供することで、グローバル市場において存在感を増してきた。

本報告では、インド大手製薬企業であるDr. Reddy's Laboratoriesの企業発展史をたどりながら、インドの製薬産業の長期的発展の要因を検討する。